



トマト促成栽培では、日射量に合わせて葉の枚数を増減させる葉面積管理技術を活用した栽培により増収や品質向上が期待されています。

特に、日射量が強くなる春先に向けて、1月中旬に開花花房直下の側枝を1本伸ばす処理（増枝）により、枝数および葉数の増加による収量の向上と果実への遮光による裂果発生の抑制が期待できると考えられています。

そこで、長崎県の主要品種「麗容」を用いて、3株中1株の側枝を増枝したところ、4月下旬以降、側枝に着果した果実の収穫が始まり、5、6月の収量は増枝しなかった

場合に比べ増加し、栽培期間を通して商品果果数および商品果収量が増加しました。また、増枝することで裂果の発生が減少しました。一

### 促成トマトの増枝

## 収量増と裂果減少へ通気性の低下に課題

増枝の有無による収量性と裂果率

区	商品果 果数 (千果/10a)	商品果 収量 (t /10a)	裂果率 (%)
増枝あり	159	26.5	8.8
増枝なし	135	23.8	13.1

方、増枝すると通気性が低下する恐れがあるため、病害の発生に留意する必要があります。

今後、増枝技術の普及によ

って農家所得の向上につながることを期待されます。

（長崎県農林技術開発センター 農産園芸研究部門野菜研究室主任 柴田哲平）